

保育実習準備の充実に向けた取り組み

久松 尚美 東 真美子 小澤 拓大

Efforts for enhancing preparation of childcare practice

Naomi HISAMATU Mamiko HIGASHI Takuhiro OZAWA

要約：筆者らは、保育実習準備の充実に向けて、「夏季休業中の実習準備内容の明確化」、「指導案の作成課題」、「実習1ヶ月前の事前準備チェックシートの改良」という3つの取り組みを行った。本論は、その取り組みの内容及び効果検証の結果を報告するものである。学生に対する調査の結果、3つの取り組みのいずれも効果が認められた。

I. 保育実習の充実に向けて

「保育実習」及び「保育実習指導」は保育者養成課程の中核をなす。保育者養成校の教育の質を保証するにあたっては、この二つの充実が必須要件になるであろう。第一著者と第二著者は保育実習の担当となり、本学の実習指導体制に即した「保育実習指導」のあり方について試行錯誤を重ね、実習充実に向けての取り組みを企画し、実践してきた。

その取り組みの一つとして、在学中の2年間における実習の集大成となる「保育実習Ⅱ」（2年次11月初旬～中旬、2週間）において、2016年度より実習報告会を開催している。保育実習Ⅱに向けての事前指導にて、「実習前の実習報告会の予告」と「実習中に実習報告書の作成をすることの指導」を行うことで、実習中の学びを促進することが示された（久松，2017）。また、実習後に開催された実習報告会においては、実習後の振り返りの促進や、新たな視点の獲得、目標・課題の明確化、などにおいて効果が示された（久松・小澤，2018a, 2018b）。よって、実習報告会の予告や実習報告会の開催が実習中や実習後の省察の促進に効果を及ぼし、それらを通して学びの質を高め、学生の成長が期待されることが明らかとなった。これらの取り組みは、今後も継続していきたく考えている。

上記に示したとおり、実習中の学びの深化や実習後の省察に特に力を入れて実習指導の充実を図ってきたが、更なる実習の質の向上に結びつく手立てを模索する中で、学生が実習後に挙げる課題・反省に着目した。学生が作成した「実習報告書」の記述の中に、「事前の準備の大切さ」を挙げる学生が多く、特に研究保育に向けた事前準備についての反省が多くを占める現状にある。保育実習Ⅱにおいては「研究保育」の計画・実践・省察が課せられる。事前準備として、夏季休業中に保育実習Ⅱの実習先にて体験実習を3日間以上実施し、子どもの姿を把握した上で研究保育に向けての案を検討し、指導案を作成するよう指導している。しかしながら、学生の実習報告書の記述内容からは、一部の学生において、事前準備が整っていない状態での実習開始が余裕のなさを生み、自分の保育に自信が持てていない様子が伺える。このような状況では、本来の能力が発揮できず、適切な指導を受ける機会を逃してしまっているのではないだろうか。

以上を踏まえ、実習に臨む前の実習準備段階へのアプローチについては、まだ改善の余地があるのではないかと考え、筆者らは、次の3つの企画を実施した。

1. 夏季休業中の実習準備内容の明確化

過密なカリキュラムをこなす学生にとって、夏季休業中(9月)は貴重な実習準備期間となる。この時点においては、既に保育実習Ⅰa(2週間:保育所)、教育実習(3週間:幼稚園)を終えているため、見通しをもち計画的に実習準備を進める学生もいる。しかしながら、上記の学生の事前準備の反省を鑑みると、この時点においても未だ具体的に何を準備したらよいかの理解できていない学生もいると考えられる。そこで、夏季休業前の実習指導において、保育実習Ⅱに向けて夏季休業中に準備する内容を、書面を用いて明確に提示した。これにより、学生の夏季休業中の実習準備の取り組みを促進することを意図した。その準備内容は、具体的には以下の通りである。なお、夏季休業中には保育実習Ⅰb(施設実習)も実施されるが、準備内容は保育実習Ⅰbの実施に支障がでない程度の内容にするよう配慮した。

① 手作り教材の作成

部分保育や研究保育で用いることができる、ペープサート・エプロンシアター・パネルシアター・指人形・手品などを作成し準備することを指導した。

② ピアノの練習

「ピアノ弾き歌い準備シート」(付録1参照)を配布し、取り組むよう指導した。この「ピアノ弾き歌い準備シート」は、各学生がどの段階(レベル)まで自分の準備が進んでいるかが把握できるよう工夫した。実習先から曲目を指定されている場合は、その曲目が記入できる形になっているが、必ずしも実習先から曲目を指定されるとは限らない。そこで、実習時期(11月頃)や取り組みやすさを踏まえて、「こどもの歌ベストテン」(板東, 2014)、「幼児のための音楽教育」(神原・鈴木, 2010)から、いくつかの曲目を抜粋している。

③ 手遊び歌の習得

おおよその年齢別に、5つ以上習得するよう指導した。

④ 絵本(紙芝居)の読み聞かせ

おおよその年齢別に、5冊以上習得するよう指導した。

2. 指導案の作成課題(夏季休業中)

学生は、夏季休業中に保育実習Ⅱの実習先で3日以上の実験実習を行う。そこで、実験実習で観察した子どもの姿や園の状況を踏まえた、研究保育を想定した指導案の作成をするよう指導した。保育実習Ⅱで行う研究保育においても、実習先の子どもの姿や園の状況を踏まえて、指導案を作成する必要がある。実験実習を通して、その指導案作成の流れを一度でも経験しておくことにより、保育実習Ⅱの研究保育や指導案作成の充実に繋がると考え、このような企画を実施した。なお、単に実験実習を踏まえて指導案を書くことを指示しただけでは、十分に取組めない学生もいることが想定された。そこで、実験実習報告書に、指導案の作成においてどのような点を観察・把握すべきかが理解できる項目を追加した。具体的には、子ども達の様子として、「運動機能の発達(全身運動・手指の操作)」、「言葉の発達」、「人間関係の発達(自我・社会性)」、「子ども達の興味・関心(遊びの特徴など)」、「特別な配慮が必要な子ども達の様子と保育者の援助」や、保育を取り巻く環境(保育室内・園庭・その他)等、指導案を作成するにあたり必要な情報を記載する箇所を設けた。なお、この際に作成された指導案は、夏季休業明けに提出するよう指示した。第一著者と第二著者で提出された指導案を全て確認し、未提出者には個別で指導した。また、内容が不十分であった学生に対しては、書面および口頭でフィードバックを行った。

3. 実習 1 ヶ月前の事前準備チェックシートの改良

例年、実習 1 ヶ月前には、実習指導の時間に事前準備チェックシートが配布される。今回は、その改良として、「研究保育における指導案作成の準備に関する内容」および「保育教材や保育技術（手遊び歌・ピアノ・絵本の読み聞かせ・紙芝居）に関する準備の進捗状況が確認できる内容」を追加した（付録 2 参照）。

以上、保育実習準備の充実に向けて、3 つの企画を実施した。以下より、これらの 3 つの企画の効果検証を行う。

II. 3 つの企画の効果検証

1. 効果検証の方法

保育実習 II の事後指導では、学生が保育実習 II を振り返る自己評価の時間を設けている。その際に用いる自己評価シートの中に、今回の三つの企画の効果検証を行うための質問項目を組み入れた（付録 3 参照）。回収された自己評価シートから得られたデータ数は 200 名分であった（保育実習 II 参加者の 97.1%、項目によって欠損値あり）。

2. 「夏季休業中の実習準備内容の明確化」の効果検証

夏季休業中の実習準備内容の明確化の効果検証は、質問項目 IV 〈夏季休業中における保育実習 II に向けての準備について〉の項目および実習先からの評価を用いた。

①各準備内容の取り組み状況

各準備内容にどの程度取り組んだかについて、A.（かなり取り組んだ）、B.（取り組んだ）、C.（あまり取り組まなかった）、D.（全く取り組まなかった）のいずれかで回答を求めた。回答結果を基に、準備内容ごとに各回答の人数と割合を算出した（表 1）。

表1 夏季休業中の各準備内容の取り組み状況

	かなり取り組んだ	取り組んだ	あまり取り組まなかった	全く取り組まなかった
①指導案作成	55名(27.5%)	125名(62.5%)	19名(9.5%)	1名(0.5%)
②手作り教材作成	16名(8.0%)	44名(22.0%)	93名(46.5%)	47名(23.5%)
③ピアノ練習	42名(21.0%)	99名(49.5%)	54名(27.0%)	5名(2.5%)
④手遊び歌習得	31名(15.5%)	114名(57.0%)	49名(24.5%)	6名(3.0%)
⑤絵本の読み聞かせ	52名(26.0%)	85名(42.5%)	56名(28.0%)	7名(3.5%)

()内は各準備内容における回答の割合
番号(①~⑤)は質問項目(付録参照)の番号に対応

表 1 をみると、「②手作り教材作成」以外は多くの学生が「かなり取り組んだ」もしくは「取り組んだ」という結果になっている。準備内容を明確化することにより、学生が準備に取り組みやすくなったのではないだろうか。「②手作り教材作成」へ取り組んだ学生が相対的にみて少なかったのは、学生が取り組む必要性を感じていないことが原因として考えられる。実習が始まると、このような教材作成をしている余裕はあまりない。また、作成した教材は就職してから活用することができる。今後は、学生が夏季休業中（余裕がある時期）に一つでも多くの教材を作成する必要性が感じられるような指導をしていきたい。

「①指導案作成」については、夏季休業中明けに指導案の提出が義務づけられていたにも関わらず、1 割の学生が「全く取り組まなかった」もしくは「あまり取り組まなかった」という結果になった。上述した通り、未提出の学生に対しては、夏季休業後に個別指導を行い、保育実習 II までには指導案を提出させた。また、指導案の内容が不十分な学生に対しては、書面にてフィードバックを行った。全体的なシステムを工夫しても、それについてこられない学生も

いる。このような場合には、個別の対応が有効であろう。

また、「③ピアノ練習」、「④手遊び歌習得」、「⑤絵本の読み聞かせ習得」においても、3割近い学生が「全く取り組まなかった」もしくは「あまり取り組まなかった」という結果になった。「③ピアノ練習」がこのような結果になった理由としては、学生によっては練習環境が整っていないことや、ピアノ技術が低いため練習へのモチベーションがあがらないこと等が考えられる。一方、「④手遊び歌習得」、「⑤絵本の読み聞かせ習得」がこのような結果になった理由としては、取り組んだ内容を書き込む記録用紙のようなものがなかったため、自身の取り組みが可視化できず、モチベーションがあがらなかったこと等が考えられる。今後はこのような点に配慮して指導を行っていききたい。

②保育実習Ⅱにおける「夏季休業中の準備」の活用の程度

夏季休業中の準備が保育実習Ⅱにおいてどの程度活かされたについて、A. (とても活かされた)、B. (活かされた)、C. (あまり活かされなかった)、D. (全く活かされなかった)、E. (準備に取り組まなかった)のいずれかで回答を求めた。回答結果を基に、各回答の割合を算出したところ、A. (とても活かされた) (22名:11.1%)、B. (活かされた) (135名:68.2%)、C. (あまり活かされなかった) (35名:17.7%)、D. (全く活かされなかった) (3名:1.5%)、E. (3名:準備に取り組まなかった) (1.5%)となった。表1も踏まえると、全ての学生が準備に取り組んだとはいえないが、やはり準備をすればそれだけ実習に活かされるということが示された。これは、筆者らが指定した準備内容の妥当性を示すものともいえよう。しかしながら、「あまり活かされなかった」もしくは「全く活かされなかった」という学生も2割程度いる結果となったので、準備内容の再検討も行っていきたい。

3. 「指導案の作成課題(夏季休業中)」の効果検証

指導案の作成課題の効果検証は、質問項目V〈夏季休業中における保育実習Ⅱに向けた体験実習について〉の項目を用いた。体験実習報告書を基に指導案を作成したことは、どのような意味があったかについて、A. (とてもあてはまる)、B. (あてはまる)、C. (あまりあてはまらない)、D. (あてはまらない)のいずれかで回答を求めた。回答結果を基に、準備内容ごとに各回答の人数と割合を算出した(表2)。

表2 指導案作成課題(夏季休業中)の効果について

	とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①視点・関わり方が明確になった	56名(28.1%)	133名(66.8%)	8名(4.0%)	2名(1.0%)
②観察内容が明確になった	63名(31.7%)	121名(60.8%)	14名(7.0%)	1名(0.5%)
③考えて体験実習に臨むようになった	130名(65.3%)	66名(33.2%)	3名(1.5%)	0名(0.0%)
④指導案を書く際の観察・把握が明確になった	67名(33.7%)	126名(63.3%)	6名(3.0%)	0名(0.0%)
⑤積極的に質問するようになった	66名(33.2%)	93名(46.7%)	36名(18.1%)	4名(2.0%)
⑥指導案の基本が再確認できた	72名(36.2%)	112名(56.3%)	14名(7.0%)	1名(0.5%)
⑦指導案が書きやすかった	69名(34.7%)	104名(52.3%)	24名(12.1%)	2名(1.0%)
⑧満足いく指導案が書けるようになった	44名(22.1%)	130名(65.3%)	24名(12.1%)	1名(0.5%)

()内は各準備内容における回答の割合
番号(①~⑧)は質問項目(付録参照)の番号に対応

全ての項目において、「とてもあてはまる」もしくは「あてはまる」の割合が高かった(79.9%~98.5%)。この結果より、指導案作成課題の取り組みは効果的であったといえよう。この時点では、学生は実際の子どもの姿や園の状況を観察・把握して指導案を書くという経験はあまりない。この課題に取り組むことにより、体験実習への意識や指導案を書く技術が高まったといえよう。一部の学生においては、指導案作成課題の効果が十分に認められなかった(全くあてはまらない・あまりあてはまらない)。今回の結果だけでは、その理由について検討すること

はできないが、全ての学生に効果があるような取り組みとなるよう改善していきたい。

4. 「実習 1 ヶ月前の事前準備チェックシートの改良」の効果検証

実習 1 ヶ月前の事前準備チェックシートの改良の効果検証は、質問項目 VI (保育実習 II 事前チェックシートについて) の項目および実習先からの評価を用いた。

①事前準備チェックシートの使用状況

事前準備チェックシートの追加箇所 (3. 【実習内容・研究保育に関する準備】) をどの程度使用したかについて、「1. 使用した 2. 少し使用した 3. 全く使用しなかった」のいずれかで回答を求めた。その結果、「使用した (42 名、21.4%)」、「少し使用した (143 名、73.0%)」、「全く使用しなかった (11 名、5.6%)」となった。この結果より、事前準備チェックシートが十分に活用されていたとはいえない。事前準備チェックシートの活用方法の説明が不十分であったことが一因かもしれない。説明時間の確保や説明方法の改善を検討していきたい。

②事前準備チェックシートの効果 (学生の自己評価)

事前準備チェックシートの効果を検証するために、上記質問に対して、「1. 使用した」もしくは、「2. 少し使用した」と回答した学生に対して、事前準備チェックシートの 3. 【実習内容・研究保育に関する準備】の箇所を使用することは、どのような意味があったかについて、A. (とてもあてはまる)、B. (あてはまる)、C. (あまりあてはまらない)、D. (あてはまらない) のいずれかで回答を求めた。回答結果を基に、準備内容ごとに各回答の人数と割合を算出した (表 3)。

表3 事前準備チェックシートの効果について

	とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①実習の準備が充実した	56名(29.5%)	124名(65.3%)	10名(5.3%)	0名(0.0%)
②研究保育の準備が充実した	51名(26.8%)	118名(62.1%)	21名(11.1%)	0名(0.0%)
③ピアノの練習が充実した	53名(28.0%)	88名(46.6%)	42名(22.2%)	6名(3.2%)
④実習への不安が和らいだ	48名(25.3%)	94名(49.5%)	44名(23.2%)	4名(2.1%)
⑤研究保育が充実した	43名(22.6%)	118名(62.1%)	26名(13.7%)	3名(1.6%)
⑥研究保育以外の実習が充実した	53名(27.9%)	118名(62.1%)	17名(8.9%)	2名(1.1%)

()内は各準備内容における回答の割合
番号(①~⑥)は質問項目(付録参照)の番号に対応

全ての項目において、「とてもあてはまる」もしくは「あてはまる」の割合が高かった(73.7%~94.5%)。事前準備チェックシートの使用が、準備や実習の充実、不安の和らぎ、研究保育の充実に繋がったと考えられる。上記(「①事前準備チェックシートの使用」)より、事前準備チェックシートの活用は十分とはいえないが、使用することの効果はあると思われるので、今後も使用を促していきたい。指導案作成課題と同様、一部の学生については十分な効果がみとめられなかった。こちらについても改善の余地があるだろう。

III. まとめと今後の課題

本研究では、本年度の保育実習 II において、実習準備の充実に向けて行った 3 つの取り組みについて詳述するとともに、その効果検証を行った。その結果、いずれの取り組みにおいても、効果が認められた。しかしながら、どの取り組みにおいても、一部の学生においては、取り組んでいなかったり、効果が認められなかったりした。今後の改善を検討したい。実習は保育者養成の中核となるものである。今後も保育者養成校の教員として、実習の充実に取り組んでいきたい。

引用文献

- 板東 貴余子 (2014). 簡易伴奏による こどもの歌ベストテン 〈改訂新版〉 ドレミ楽譜出版社
- 久松 尚美 (2017). 保育実習における実習報告会の試み 日本保育学会第 70 回大会発表要旨集, 892.
- 久松 尚美・小澤 拓大 (2018a). 保育実習における実習報告会の試み 2—昨年度との比較を基にした検討— 保育者養成教育学会第 2 回研究大会抄録集, 186.
- 久松 尚美・小澤 拓大 (2018b). 保育実習後の実習報告会が学生の成長に及ぼす影響 宮崎学園短期大学紀要, 10, 175-186.
- 久松 尚美・東 真美子・小澤 拓大 (2019). 保育実習準備の充実に向けて 保育者養成教育学会第 3 回研究大会抄録集, 93.
- 神原 雅之・鈴木 恵津子 (監修・編著) (2010). 幼稚園教諭・保育養成課程 幼児のための音楽教育 教育芸術社

付記

本論文は、第 3 回日本保育者養成教育学会研究大会で発表された内容 (久松・東・小澤, 2019) に加筆したものである。

付録1：ピアノ弾き歌い準備シート

○保育実習Ⅱに向けての準備（夏季休業中～11月）【ピアノ弾き歌い準備シート】

1 体験実習や事前打ち合わせにおいて実習先から曲目を指定された人は、曲目を記入し、レベル①からレベル④に向けて練習していきましょう。

	実習先で歌っている歌など 曲 目	◎テキスト等			段階の把握（レベル①～④）			
		青	黄	ブ	①歌える	②右手で弾ける	③両手で弾ける	④弾き歌いできる
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

◎テキスト等 ・青…「こどもの歌ベストテン」改訂新版 ・黄…「幼児のための音楽教育」 ・ブ…プリント譜

2 体験実習や事前打ち合わせにおいて実習先から曲目を指定された人は、それを優先的に練習することになりますが、曲目が未定であったり、「季節の歌やこどもの歌を数曲弾いてくる」という指示の場合は、以下の曲目を参考にし、弾き歌いできる曲を少しでも増やしておきましょう。

	季節の歌（11月頃） 曲 目	◎テキスト等			段階の把握（レベル①～④）			
		青	黄	ブ	①歌える	②右手で弾ける	③両手で弾ける	④弾き歌いできる
1	どんぐりころころ	50						
2	まつぼっくり	51						
3	もみじ	52						
4	こおろぎ	53						
5	ちいさい秋みつけた	54						
6	まっかな秋	56						
7	きくのはな	57						
8	やきいもグーチャーパー	58	78					
9	大きな栗の木の下で	59	86					
10	山の音楽家	60	52					
11	たきび	64	88					
12	やまびこっこ	81						
13	森のくまさん	102	92					
14	おうま		77					
15	夕やけこやけ		83					
16	おんまはみんな		94					

	こどもの歌（例） 曲 目	◎テキスト等			段階の把握（レベル①～④）			
		青	黄	ブ	①歌える	②右手で弾ける	③両手で弾ける	④弾き歌いできる
1	おもちゃのチャチャチャ	92	76					
2	いぬのおわまりさん	94						
3	大きな古時計	96	101					
4	アイアイ	98	61					
5	とんでったバナナ	100						
6	そうだったらいいのにな	106						
7	宇宙船のうた	107	102					
8	アンパンマンのマーチ	112						
9	となりのトトロ	114						
10	勇気100%	126						
11	夢をかなえてドラえもん	129						
12	ミッキーマウスマーチ	138						
13	手をたたきましょう		43					
14	バスごっこ		79					
15	じゃんけんれっしゃ			○				

平成30年度【器楽Ⅱ】試験曲一覧より抜粋

付録2：事前準備チェックシート（一部抜粋）

※記載したものの以外に、「実習に向けての手続き」や「実習先との事前打ち合わせ」に関する箇所が設けられている。また、事前準備チェックシートには、付録1で示した「ピアノ弾き歌い準備シート」と同様のものが含まれている。

3. 【実習内容・研究保育に関する準備】

	項目	準備内容	実施完了日
1	『実習に臨むに当たって』記入 *実習までにどのような準備を行い、実習中はどのような視点をもって実践するのか具体的に記入。	①保育実習Ⅱに向けての目標を明確にした。	
		②臨むに当たっての下書きを、学級主任に提出した。	
		③下書きの指導を受けた後、清書を完成させた。	
2	『実習先の状況』記入 (記録簿)	事前に調べて記入した。 *不明な点は、事前打ち合わせにて確認し記入。	
3	保育日誌・保育指導案 振り返り	「保育実習Ⅰa」「教育実習」の記録簿を見直し、これまでの保育について振り返る。反省や課題を活かす。	
4	保育内容（5領域）再確認	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」に基づき「ねらい」を検討する。 *発達段階にあった技術面 *心情・意欲・態度	
5	研究保育に向けて 案の検討	<案の検討>3つ 体験実習中の子どもの姿から、11月の姿を想定し、案を検討する。(どのような教材・方法で、どのような活動を行いたいのか。この活動でどのような経験をさせたいか。) (配当クラスが未定の場合は、全ての年齢を想定し検討する。)	3つ検討
		①対象年齢()人数() 主な活動： ねらい：	
		②対象年齢()人数() 主な活動： ねらい：	
		③対象年齢()人数() 主な活動： ねらい：	
6	研究保育に向けて 「保育指導案」作成	<保育指導案の作成>1枚以上 上記案に基づき、指導案を作成する。 <u>シミュレーション</u> を何度も行い、こういふことが起きるのではないかと様々な視点から考え、案を立てる。 (配当クラスが未定の場合は、全ての年齢を想定し指導案を作成しておく。)	
		①対象年齢()人数() 主な活動：	
		②対象年齢()人数() 主な活動：	
		③対象年齢()人数() 主な活動：	
7	研究保育で用いる教材・ 試作品の準備	製作活動・ゲーム等を行う場合の試作品(数種類)を事前に準備し、 <u>実際に作って・使って(遊んで)活動内容をシミュレーションし</u> 、指導案の内容に反映させる。※試作品は、指導案と一緒に見ていただく。	

	項目	準備内容	実施完了日
8	手作り教材の作成 *部分保育・研究保育で活用 (指人形・ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター 等)	①	
		②	
		③	
9	ピアノの練習	「ピアノ弾き歌い準備シート」に進捗状況を順次記入する！	
10	手遊び歌の復習・習得 *年齢・季節を考慮 自信を持って実践できるように！	☆おおよそ 1 歳～3 歳未満	
		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
		☆おおよそ 3 歳以上～	
		①	
		②	
		③	
		④	
⑤			
11	絵本の読み聞かせ・紙芝居練習 *年齢・季節に適した内容 (持ち方・めくり方・読み方・強弱・間の取り方等)	☆おおよそ 1 歳～3 歳未満	
		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
		☆おおよそ 3 歳以上～	
		①	
		②	
		③	
		④	
⑤			

付録3：質問項目

※一部不明瞭な内容が含まれていたが、回答を行う際に調査者（第一著者）が補足を加えた。
以下のものは、その補足や不明瞭な点の修正を反映したものになっている。

IV <夏季休業中における保育実習Ⅱに向けての準備について>

7月31日(火)の保育実習指導Ⅱにおいて、「保育実習Ⅱに向けて夏季休業中に準備すること」を説明しました。夏季休業中に保育実習Ⅱに向けた準備として、以下の事柄にどの程度取り組みましたか？ <評価基準> A:かなり取り組んだ B:取り組んだ C:あまり取り組まなかった D:全く取り組まなかった	評 価 該当する段階を○で囲む			
	かなり 取り組 んだ	取り組 んだ	あまり 取り組 まな かった	全く取 り組ま なかつ た
①夏季休業中の季節に行う保育を想定した指導案の作成	A	B	C	D
②手作り教材の作成(ペープサート・エプロンシアター・パネルシアター・指人形・手品など)	A	B	C	D
③ピアノ弾き歌い準備シートを活用したピアノの練習	A	B	C	D
④手遊び歌の習得(おおよその対象年齢別に5つ以上)	A	B	C	D
⑤絵本の読み聞かせ(おおよその年齢別に5冊以上)	A	B	C	D
準備をしたことは、実際の保育実習Ⅱにおいてどの程度活かされましたか？【 該当する段階を○で囲む 】 A. とても活かされた B. 活かされた C. あまり活かされなかった D. 全く活かされなかった E. 準備に取り組まなかった				

V <夏季休業中における保育実習Ⅱに向けた体験実習について>

今回の体験実習では、指導案の作成に向けた形で体験実習報告書も作成しました。そして、その体験実習報告書を基に、指導案を作成しました。そのことは、あなたにとってどのような意味がありましたか？ <評価基準> A:とてもあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない	評 価 該当する段階を○で囲む			
	とても あては まる	あては まる	あまり あては まらな い	全く あては まらな い
①体験実習において、子ども達を観察する視点や、子ども達への関わり方が明確になった。	A	B	C	D
②体験実習において、子ども達以外に何を観察したらよいのが明確になった。	A	B	C	D
③以前までの体験実習よりも、考えて体験実習に臨むようになった。	A	B	C	D
④指導案を書く際に、子どものどのようなことを観察、把握すればよいのがわかるようになった。	A	B	C	D
⑤体験実習報告書や指導案作成にあたって、園の先生に積極的に質問をするようになった。	A	B	C	D
⑥指導案を書く際の基本を再確認することができた。	A	B	C	D
⑦保育実習Ⅱにおいて、指導案が書きやすかった。	A	B	C	D
⑧保育実習Ⅱにおいて、満足いく指導案を書けるようになった。	A	B	C	D

VI <保育実習Ⅱ 事前チェックシートについて>

今回の保育実習Ⅱでは約1ヶ月前に、「保育実習Ⅱ 事前チェックシート」を配布しました。あなたは、そのチェックシートの中の3.【実習内容・研究保育に関する準備】の箇所を使用しましたか？ 【 該当する段階を○で囲む 】 1. 使用した 2. 少し使用した 3. 全く使用しなかった		評 価 該当する段階を○で囲む			
以下の質問は、上記で「1. 使用した」もしくは「2. 少し使用した」と回答した学生のみ答えてください。チェックシートの中の3.【実習内容・研究保育に関する準備】の箇所を使用することは、あなたにとってどのような意味がありましたか？ <評価基準> A:とてもあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない		とても あては まる	あては まる	あまり あては まらな い	全く あては まらな い
①保育実習Ⅱの準備が充実した。		A	B	C	D
②保育実習Ⅱの研究保育の準備が充実した。		A	B	C	D
③保育実習Ⅱに向けたピアノの練習が充実した。		A	B	C	D
④保育実習Ⅱへの不安が和らいだ。		A	B	C	D
⑤保育実習Ⅱにおける研究保育が充実した。		A	B	C	D
⑥研究保育以外の保育実習Ⅱの内容が充実した。		A	B	C	D